

わが生誕のまち「千種本町1丁目」

わたしが生まれ育ったのは、名古屋市千種区千種本町1丁目の「鉄道(国鉄)官舎」である。この歳になっても、生誕のまちは気になるものだ。

前にレポートしたが、鶴舞公園の公会堂に行った帰りに、久しぶりに近くまで歩いた。写真上は、千種本町の「飯田街道」沿いだ。この右奥に「官舎」があった。今はすっかり変わってしまい、記憶も定かではない。

飯田街道は名古屋中心部と信州飯田を結ぶ重要な街道で、当時は商店街も活気があった。真っすぐ行くと「古井ノ坂」だ。いま考えると「こいの坂」なんて、粋な名前だ。恋に破れること多かったが。

下の2枚の写真から気づいたことがある。飯田街道からすこし北に、「名古屋牛乳吉田販売店」という家が見える。ここは遠い昔、牛乳などでお世話になった。おばあさんの記憶が微かにある。母が元気な頃、一緒に訪ねたように思う。

その下の写真は飯田街道から南に向けた細い通りだ。ここも記憶に残る。左に映る白い壁の閉まった店は、確か「いちやま」という名のうどん屋さんだったと思う。数少ない食堂であり、よく繁盛していた。母が寝ずの針仕事で大晦日も仕事を続けていた時など、特別に「出前」を頼んだこともある。

毎晩、夜遅くまで必死に呉服屋からの「注文」仕事に追われていた母の姿がいまでも忘れられない。

60年ほど前のことでも、きちんと記憶に残っていることもあるものだ。やはり、牛乳とうどん(きしめん)といった食べ物に関係したものが、とりわけ印象深いのだろうか。

いちばん下の写真は、自宅に配布されたフリーペーパーに載っていた「大日本麦酒株式会社名古屋工場」。鶴舞公園近く、吹上の大きな工場だ。ここはいま「サッポロビール名古屋園 洪養園」として賑わっている。短大時代はメーデーの後など、よく飲んだものだ。洪養園のほか、大型ショッピングセンターや高層マンションなどが立ち並んでいる。このビール工場は、角度は違うが、鉄道官舎の南の窓からいつも眺めていた。お酒が好きになるわけだ。



(2016年11月12日)